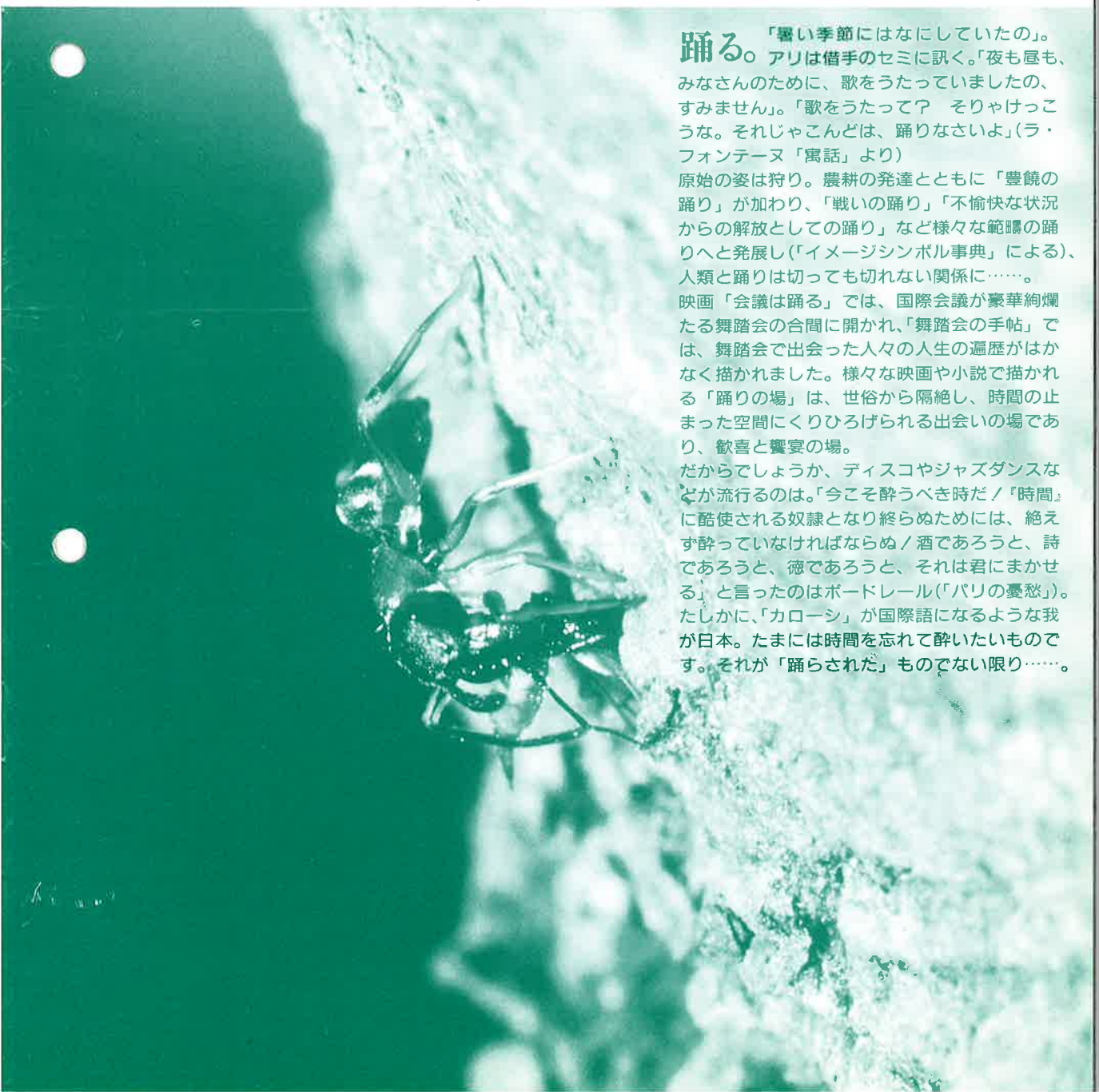
京都の生協

NO. 16

カメラルポ●消費税で33万人が「府民投票」
デンマークの生協を訪ねて
イタリアの生協を訪問して
連載――京の水

発行/京都府生活協同組合連合会
January●1990

〒604 京都市中京区烏丸二条角 西和ビル6F
TEL.075-251-1551 FAX.075-251-1555



踊る。「暑い季節にはなにしていたの」。アリは借手のセミに訊く。「夜も昼も、みなさんのために、歌をうたっていましたの、すみません」。「歌をうたって？　そりゃけっこうな。それじゃこんどは、踊りなさいよ」(ラ・フォンテーヌ「寓話」より)

原始の姿は狩り。農耕の発達とともに「豊饒の踊り」が加わり、「戦いの踊り」「不愉快な状況からの解放としての踊り」など様々な範疇の踊りへと発展し(「イメージシンボル事典」による)、人類と踊りは切っても切れない関係に……。

映画「会議は踊る」では、国際会議が豪華絢爛たる舞踏会の合間に開かれ、「舞踏会の手帖」では、舞踏会で出会った人々の人生の遍歴がはかなく描かれました。様々な映画や小説で描かれる「踊りの場」は、世俗から隔絶し、時間の止まった空間にくりひろげられる出会いの場であり、歓喜と饗宴の場。

だからでしょうか、ディスコやジャズダンスなどが流行るのは。「今こそ酔うべき時だ！『時間』に酷使される奴隷となり終らぬためには、絶えず酔っていなければならぬ！酒であろうと、詩であろうと、徳であろうと、それは君にまかせる」と言ったのはボードレール(「パリの憂愁」)。たしかに、「カローシ」が国際語になるような我が日本。たまには時間を忘れて酔いたいものです。それが「踊らされた」ものでない限り……。

随　想

野菜の味

京都橘女子学園生活協同組合理事長　志賀亮一

最近ふとしたきっかけで、有機農業の野菜を食べるようになった。驚いたことに、というか、当然のことに、野菜の味がまったく違うのである。とくに強く感じたのは、香りの違いである。きうりにはきうり特有の、あの青臭いような、しかし、子供の頃に食べていたきうりをはっきりと思い出させる、どこかなつかしい香りが、トマトにはまた、あの少しこげ臭いような強烈なにおいがある。

それにしても、僕たちは、こういう野菜の香りを忘れてしまってから、どれ程の時をすごしてきたのだろうか。そう思いながら、「近代文明の進歩とは一体何んだったんだ」などと、やや大げさな疑問が、少し飛躍してはいるなと自覚しつつも、湧き上るのをおさえることができなかった。もともと、この「近代文明」というやつは、ヨーロッパに生まれ、帝国主義時代のヨーロッパ諸国の世界制覇を通じて、全世界に、そして日本に伝わってきたものである。とすれば、この世界中に広まった「近代文明」は、世界のいたるところで、こんな状態をひき起こしているにちがいない。そう思って少し暗い気持ちになりかけた。

けれども、その時、ふと、この「近代文明」の本家、ヨーロッパの国々で食べた野菜のことを思い出した。それらの野菜には、はっきりと強い香りがあったことを、である。とくに、冬によく出回っているチシャのほろにがさと香りを（僕はチシャが大好物なのだが）。そうすると、一体日本の普通の野菜はどうなっているのだろう。おそらく、日本の高度に発達した科学技術と、日本人独特の勤勉さとが、経済効率を追求するあまり、あんな野菜を作り出してしまったのだろうか。

大上段に振りかぶって書いてきてしまったけれど、要するに僕は、うまい野菜が食いたいのである。また、周囲の人たちにも食わせたいのである。そういう意味で、わたしたちの生協運動が、これからももっと大学で、地域で力をつけなければならない、と思う今日この頃なのだ。この運動の目的は、よりよい生活を築くことなのだから。

CONTENTS

1 カメラルポ――消費税で33万人が「府民投票」
4 個性ゆたかな協同の時代へ――京都生協が創立25周年記念行事
6 デンマークの生協を訪ねて
8 イタリアの生協を訪問して
9 「被爆者援護法」要求し「府民のつどい」
府庁生協が「鮮魚市」
10 連載③「京の水」――京の川
12 乙訓医療生協／京都医療生協／ノーモア・ミナマタ京都府民のつどい／京都生協「たすけあいの会」／第1回近畿地区生協・行政合同会議／「月曜会」と府生協連が懇談会
15 輝いた手話のうたごえ
16 まちづくりと文化を考える「89京都文化フォーラム」
17 気になるこの本『デルタからの出発』

カメラ・ルポ

消費税で33万人が「府民投票」

96.2%が「廃止」の意思表示

11月25日、消費税の廃止をもとめる「京都府民投票」が実施された。結果は「投票総数」が337552票、有効票のうち「廃止」票は323525票で96.2%に達し、「消費税廃止」をもとめる京都府民の声がいかに強いものかを示すものとなった。

この「府民投票」は「消費税廃止をもとめる京都府民投票実行委員会」（委員長・高柳久子京都府生協連理事）がよびかけたもので、海部内閣の「見直し」論にたいし、ふたたび「消費税ノー」の意思表示を行なおうというものでした。実行委員会は10月14日に結成され、10月26日から運動がはじまりました。

この運動によせられた関心は実に強く、マスコミによって知ったという府民からも「母子家庭で、87歳の母親を入院させていますが、その費用にも消費税がかかる。弱いものいじめの消費税は廃止するしかありません」との声もよせられました。

最終的には中小企業団体、労働団体、消費者・市民団体、婦人団体などがしっかりとスクラムをくみ、１カ月ほどの運動期間でしたが、全府下にこの運動の輪がひろがっていきました。

「投票日」の11月25日には北野天満宮前、出町商店街、四条河原町などの街頭・ターミナルなどでの「投票所」や、生協の店舗前、商店の店先などで、いっせいに投票がよびかけられました。

今回の「投票」では、子どもも投票できることにしたことから、どこでも子どもたちもつぎつぎ投票。投票用紙の「私の意見」欄にもギッシリと「怒りの声」が書きこまれました。

実行委員会も宣伝カーを使い、高柳実行委員長を先頭に街頭での訴えをつづけました。

この日のようすは新聞やテレビでも報じられ、手ごたえも十分でした。

翌26日、開票作業。開票結果がほぼまとまった段階で記者会見で「声明」を発表。「今回の投票結果は『消費税廃止』をもとめる府民の声がいかに強いかを示した」「消費税廃止まで力をあわせて運動をつづける」との態度を明らかにし、内閣総理大臣、京都選出国会議員、参院税特委メンバーに「要請書」を送付しました。

12月６日には、実行委員会代表が上京。参院議長、衆院議長に「京都府民は消費税廃止をもとめている。すみやかに消費税廃止法案を成立させてほしい」と要請し、「投票」によせられた京都府民の願いを伝えました。

その後、116国会では参議院で消費税廃止法案が可決されたが、衆議院ではまともな審議もされないまま廃案になってしまった。消費税を廃止するのか、存続させるのか、すべて近く予定される総選挙の結果しだいということになったようだ。(H)

個性ゆたかな協同の時代へ

京都生協が創立25周年記念行事

京都生協が、創立25周年を迎え、11月27日「記念のつどい」を開きました。京都生協は1964年のこの日、679人の組合員で京都洛北生協として創立、今日、府内の30.8%の世帯を組織しています。

中京区の全日空ホテルで開かれた「記念のつどい」には、各界代表・生協関係者など約700人が出席しました。

あいさつにたった横関理事長は、創立の思いが、人間らしい豊かな生活には平和が必要であり、婦人の目覚めにつくすことが暮しを守り、民主主義の土壌になること、組合員が主人公の組織でなければならぬことであった、と紹介。「少数からの出発だったが、『あたらしい、個性ゆたかな協同の時代へ』のスローガンのもと、地域社会の一員として産業、福祉、文化で何ができるか、挑戦したい」とのべました。

来賓を代表して、日生協・高村勣会長のあいさつのあと、参加者全員が歓談しました。

また、この日は、「記念のつどい」に先だち、「25周年記念歌発表式」が行なわれました。記念歌は創立25周年を記念して、組合員がいつでも口ずさめる歌をつくろうと、1989年6月～9月の間、機関誌等をとおして募集したもので、28人から29作品の応募がありました。西京区在住のフォーク歌手、高石ともやさんら5人の審査員による選考の結果、左京区の森京子さん（34歳、大学生協京都事業連合勤務）の詞、「パッチワークエネルギー」が最優秀賞に選ばれ、この詞をもとに高石さんが補作詞・作曲した「しあわせパッチワーク」が記念歌に決まり、組合員のコーラスで発表されました。

「発表式」ではこのほか、優秀賞の南区・稲谷隆さん、伏見区・中村洋一さんが表彰されました。25周年記念料理集『料理家族』と、京都生協設立発起人代表・初代理事長・能勢克男の人と思想をまとめた、『デルタからの出発』が紹介されました。

創立25周年を記念する京都生協ブロックの取り組みは1989年秋から90年春にかけて行われています。

北ブロックでは11月1日、中京区の府立勤労会館に480人が集い、「25周年記念の集い」を開きました。25年の歴史を構成劇でふりかえり、トーク＆トークで、これからの生協について願いを出しあいました。また、梅原司平のフォークコンサートで楽しいひとときを過しました。

東ブロックの中心行事は3000人の運動会でした。11月5日、伏見区の伏見桃山キャッスルランド内

グラウンドに3000人の家族が集ってかけっこ、玉入れ、つなひき、ボールおくり、二人三脚などの種目に挑戦しました。運営委員会・班の模擬店も大人気でした。稲づくりの会はこの日、会場でもちつき大会を開きました。

西ブロックの取り組みは10月22日から11月19日におよぶロングランでした。行政区ごとの7つの企画と、ブロック全体企画で、計約7000人が参加しました。右京区＝人形劇「赤ずきん」・まつりだワッショイ・飛び出すかげ絵、西京区＝ファミリーコンサート・にこにこ運動会、乙訓地区＝コープのつどい、南丹地区＝公演とコンサート、そして全体では、「西ブロック組合員のつどい」で、桂小米朝師匠が熱演しました。

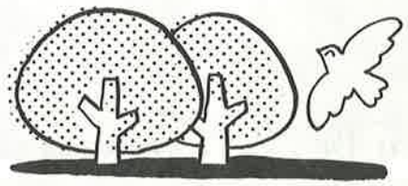
両丹ブロックでは、25周年記念事業として前進座「さぶ」の公演に取り組みました。組合員の頑張りと協力業者のおかげで、3会場の4回公演で3100人の参加と、大成功でした。チケット売りで苦労した顔も、観賞後は、涙と笑いでくしゃくしゃでした。

なお、南ブロックでは、2月17日(土)、伏見区の総合見本市会館パルスプラザ3階～5階で記念企画・文化イベントを行います。

（赤染益輝・京都生協広報担当）

デンマークの生協を訪ねて

「我々の唯一の武器はオプティミズム（楽観主義）」



横山 治生

コペンハーゲンについて

デンマークは小さくて大きな国ともいわれています。というのはユトランド半島を中心とした島々で成り立っている部分は43,000km²と日本の１／10足らずの面積ですがこのほかにデンマーク自治国として217万km²の面積をもつグリーンランドの存在があるからです。

人口は約511万人で都心部に人口の大半が集中しており、人口密度もヨーロッパの中では高い国といえそうです。（120人／km²）

中でも首都コペンハーゲンの特徴として感じたのはノルウェーやスェーデンと比べてとてもにぎやかであることです。街の中にはこれまでの訪問先では少なかった日本企業のネオンがとても目立っており、家電製品を中心に日本商品がメインになっていました。また、この街は移民が多く髪の色や目の色がことなる人々で夜おそくまで賑わっていたことです。私たちが滞在したホテルから近くにあるチボリ公園や有名ブランド店、古い教会のある有名なストロイエの通りと賑わっている一方で、反対側の中央駅西側はそれとは対照的にポルノショップや猥雑なショーの店が集中しており、ここだけは北欧デンマークのイメージよりむしろアメリカと西欧がミックスされた街という感じがしました。

デンマークといえば北欧の中でもＥＣ（欧州共同体）加盟国でありノルウェーと並んでＮＡＴＯを軸とした軍事同盟政策をとっていることなどを思い浮かべました。しかし、外国軍隊の基地否認と核兵器不導入政策を堅持しているこの国はかつて、第二次世界大戦中わずか数時間でドイツに征服され、その後すさまじいレジスタンスの運動が繰り広げられた歴史をもっています。各国の支援を得て5,000人にのぼる死者を出しながらついに自由を獲得したということも本で読んだことがあり、感慨深いものがありました。反ナチ運動への厳しい弾圧と報復で建物も破壊され、世界の夢といわれるこのチボリ公園の音楽堂も炎上したとのことです。

ＥＣ統合を控えて

９月14日、私たちはコペンハーゲンから約20km離れたデンマーク生協連本部（ＦＤＢ）を訪問しました。本部はとても立派で中央ホールが吹き抜けになった３階建ての建物でした。道路ひとつ隔てた向こうには広々とした敷地に生産工場があります。

ラウンジホールのような広々とした会議室でエリックソン氏（インフォメーション担当）が温かく私たちを迎え、オーバーヘッドプロジェクターを使って様々な角度からデンマーク生協の概要と活動について紹介してくれました。

デンマークの生協の歴史は1866年に出発します。世界最初の消費生協であるイギリスのロッジデール組合の発足が1844年ですからその20年後にこの地に生協の波が来たということになります。そして1896年に生協連（ＦＤＢ）がつくられました。ＦＤＢの特徴は地域ごとの単位生協の加盟は当然ですが加えて個人商店も加盟していることから日本で言えば生協が中心になってつくっている多機能共同仕入本部のような側面をもっています。組合員数はＦＤＢ直営店舗の組合員66万人、地域の単位生協に加入している組合員が46万人と全世帯数の半数が生協組合員になっています。また生協の全小売産業に占めるシェアーは実に34％と紹介されましたからデンマーク国内の経済動向を左右する力を有していると想像できます（日本で言えばさしずめ経団連的な存在かもしれません）。ちなみに歴代理事長の肖像画の前で個々人の略歴の紹介がありましたが、大蔵大臣や郵政大臣に相当するポスト経験者を迎えていることから、ますますその感を強く持ちました。しかし、これだけの存在感を有するＦＤＢは今ＥＣ経済統合を迎える中で過去最大のスクラップ＆ビルドの大改革を控えて役員選挙の真只中にあると報告されました。

ＥＣ統合で市場の自由化と拡大の一方で生産力が追いつかない不採算生産工場の売却、８時間稼動から24時間稼動体制の確立、避け難い大量解雇、「肥大化」した運営組織から、少数精鋭の効率的な組織運営への改革、加盟している小さな個人商店の倒産による近郊村落での商店皆無状況と社会問題への顕在化は必至とのことです。

このような中でエリックソン氏が「我々の唯一の武器はオプティミズム」と笑って答えたことがとても印象的でした。

高齢化社会への対応

デンマークで今、社会の基盤をゆり動かしているいま一つの流れは高齢化社会への本格的対応です。出生率が現在1.4人、家族構成も西暦2,000年には２人といわれるなかで高齢化対応をはじめとした社会福祉の財源として重税政策が進行しています。スウェーデンとほぼ同様に間接税は22％の税率、所得税は氏の場合で51％、夫婦働いてバカンスの為の費用がやっと確保できる程度だそうです。

国家レベルの様々な情報をリアルに得ることができる地位と国家経済動向がダイレクトに事業に反映してしまうほどの社会的存在になっている組織でもあることをエリックソン氏の報告の中に感じました。

以上の大きな話だけでなくＦＤＢの協同組合としての実際の活動もなかなかユニークなものがあります。核家族化と高齢化に対応して１人用冷凍食品の開発、デンマーク人の食事の歪みをグラフであらわし、食生活改善の取り組みを実践していること、消費者民主主義を掲げ消費者政策のガイドラインを大会で確立して健康安全、商品開発、店舗運営の３分野で中期的な政策をもって望んでいました。

しかし、押し寄せる経済の激変のなかで利用の鈍化と収益の悪化を強いられ、組合員への出資配当ができないことを理由に1975年以降は出資金無しでの組合員加入を行っているという話を聞くに及んで、西欧型協同組合の組織瓦解の轍を同じように踏みかけているのではとの問題意識を持たざるを得ませんでした。

ここ20数年間で4,000名もの日本人訪問者を迎えて民間レベルの情報にも通じているであろう氏は、報告の後にディスカッションを私たちに呼びかけ、日本の大学生協のこと、高齢化への対応のこと、税制の動きと我々の考え方などについて興味深く耳を傾けていました。

（同志社大学生協専務理事）

イタリアの生協を訪問して

消費者教育の成果を実感

高柳 久子（京都府生協連理事・京都生協常任理事）

10月14日、成田空港から代表団15名はイタリアに向けて元気に出発しました。今回の交流訪問には京都生協では初めて婦人理事６名が参加しました。

私たちは交流を目的としながらも、イタリアにおける生協の組合員活動を自分の目で確めたいと、大きな期待をもって飛び立ちました。

イタリアの空の青は限りないほど青く、ルネッサンス期の豪華な建築物や絵画、彫刻の美術書そのままのパノラマのような景色は私たちの目を楽しませ、感嘆の一語につきるほどでした。フィレンツェ生協本部の建物も例にもれずで、古さを大事にしながらゆとりある美しく豪華なインテリアは私たちの気分にゆとりをあたえてくれました。これまでに日本でお目にかかったあの人や、この人の笑顔に再会して、言葉の違いによる窮屈さや緊張感が一気にほぐれました。

イタリア婦人理事との交流の中で、それぞれの組合員活動の報告や交流は通訳の方を介してということで、時間的にも思うように深くつっこんでということにはなりませんでしたが、環境を守る運動や消費者教育にかかわる生協の立場などは、国の姿勢もあってかなり充実しているようでした。特に私たちとの交流のために消費者教育にかかわっている小・中学校の先生が授業を自習にしてまでも参加してくれ、生協のお店に展示されていた１年間の消費者教育の成果ともいえる展示物の説明を熱心にしてくれました。

子育てをしている私たちの実感として、学校における生協がかかわった消費者教育の充実は、子どもたちの成長に一生にわたって影響すると感じているだけに意義の深さを感じました。

被爆45周年

「被爆者援護法」要求し「府民のつどい」

10月24日、「被爆者援護法制定を要求する京都府民のつどい」が社会福祉会館でひらかれました。この集会は京都府生協連、京都原水協、京都平和委員会などが実行委員会を作り企画したものです。

最初に京都原水協筆頭代表理事の細井友晋氏が主催者を代表してあいさつ。つづいて被爆者の「集団証言」。「二度と私たちのような苦しい体験者をつくらないためにも一日も早く援護法制定を」と訴える被爆者。証言に涙を流す参加者もありました。

大学生協京滋ブロック、新日本婦人の会、京教組婦人部の平和活動の報告につづき、金沢大学教授の岩佐幹三氏が講演。岩佐氏は自らの被爆体験をふまえ、援護法制定の運動を被爆者だけのものにせず、国民的課題にすることがもとめられている、そのためにも国が戦争のあやまちを二度とくり返すことがないようにするための証しとして国家補償による被爆者援護法を実現しようと訴えました。

「つどい」は、最後に「苦痛をおして被爆体験を語りつぐ被爆者の心をうけつぎ、核兵器廃絶をもとめる被爆者と連帯し、被爆者援護法の制定を要求する運動にたちあがろう」との「アピール」を採択しました。（H）

新鮮で安い、生協まつり「鮮魚市」 府庁生協

府庁生協は、恒例の冬季大展示会開催（12月８日～13日）とあわせ生協まつり「鮮魚市」を12月12日昼休みに組合員とともに開催。

当日、中央市場から運びこまれた活きハマチやコッペガニ、甘赤海老、サザエなど７種類の海の幸を原価で組合員にサービス。

昼食時には、水槽の活きハマチを試食した組合員から「さすが新鮮、コリコリ歯ごたえがたまらない、おいしい」と評価も上々。

組合員は、水槽で泳いでいるハマチを「指名」、山中専務が次つぎと網ですくい上げ、食堂部職員が夕方までに「造りセット」にパック詰。

当日は、冷えこみの厳しい野外での祭、「魚が残ったら……」という心配も、組合員のハチマキ姿、威勢のいい呼びこみで、多数の組合員が参加し、海の幸は開店２時間で完売。

組合員とともに取組んだ、はじめての生協まつり「鮮魚市」は、組合員から「年内、もう一度してんかぁー」と組合員から喜ばれ、'89生協強化月間（府庁は12月15日まで）最後の催事を飾ることができました。

京の水

（その3）京の川

岡　高明

前回は京都の地下水のお話をしました。ところでみなさんは、地下水、表流水を含めて京の水が健康に良い水であることをご存知でしょうか。

京の水は健康の水

現在、わが国での死亡原因のうち、最も多いのがガンで、心臓病、脳卒中がそれに次いでいますが、ガンの治療法の急速な進歩で、やがて死因のトップは心臓病が占めるだろうといわれています。

しかし、最近までは脳卒中による死亡率が日本人の寿命を大きく左右してきました。そこで、これによる死亡率の低い地域の飲料水は健康にも良いとみなしますと、死亡率の高いほうは秋田県がトップで、岩手県、山形県がこれに次ぎ、東北地方に多くみられます。

逆に最も死亡率が低いのは兵庫県で、以下愛媛県、徳島県、京都府の順に低く、京都府は全国で四番目に低いということがわかります。

ちなみに、なぜ東北地方の各県で死亡率が高かったかといいますと、これらの地域の河川水質は酸性型が多いからです。

京都府の河川水質

表１に京都府の河川水質と全国河川総平均との比較を示しました。これを見てますと、鴨川は都心部を流れていますので各項目とも値は高く、ほぼ全国の平均値なみでした。

木津川は砂利が多くて、浮遊物と珪酸（けいさん）およびカリウムが多く含まれていますが、他の項目は全国平均よりやや少な目でした。

全般的にみますと、京都の河川水質は、鉄、珪酸などの量がやや少なく、淡白な水であるようです。

表１　京都府の河川水質と全国河川総平均との比較

項目＼河川名	鴨川	桂川	宇治川	木津川	大堰川＊	由良川（上流）	全国1685か所平均
pH	6.6	6.9	7.0	7.1	7.1	8.0	6.9
CaO（mg／ℓ）	12.5	11.4	11.3	11.2	5.7	9.4	15.9
MgO（〃）	2.5	2.7	2.4	2.1	2.2	2.5	3.7
Na_2O（〃）	13.1	5.9	7.8	9.0	4.4	5.5	10.7
K_2O（〃）	15.1	1.36	1.14	2.24	0.72	0.26	1.95
CO_2（〃）	13.8	11.4	10.4	11.5	7.3	9.7	14.4
SO_3（〃）	7.0	5.6	8.6	6.0	2.1	3.0	10.4
Cl（〃）	6.0	3.7	4.9	5.4	2.7	4.4	7.9
SiO_2（〃）	9.0	12.9	5.7	21.4	9.0	2.5	20.0
Fe_2O_3（〃）	0.08	0.12	0.08	0.43	0.01	0.14	0.48
P_2O_5（〃）	0.08	0.05	0.03	0.03	0	0	0.03
NO_3-N（〃）	0.47	0.38	0.13	0.24	0	0	0.28
NH_4-N（〃）	0.12	0.08	0.04	0.04	0	0	0.04
蛋白態－N（〃）	0.23	0.22	0.03	0.04	－	－	0.08
$KMnO_4$消費量（〃）	－	－	2.0	0.9	1.3	1.5	3.5
蒸発残渣（〃）	63.0	58.0	55.0	75.0	36.5	44.5	89.1
浮遊物（〃）	26.7	12.5	6.5	23.8	7.9	49.2	23.9

＊（桂川上流）〔昭和２９～３０年，京都府農試成績書，小林測定による〕

鴨川のＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）

これら京都の河川も、昭和30年後半から10年ほどの間は、都市排水や、上流の開発造成などによってかなり水質汚濁が進んできました。

しかし、京の顔である鴨川は、昭和40年代の半ばから再び清澄さを取り戻してきました。それは表２で示しました水の汚れの目安といわれるＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）の値を見ていただいてもおわかりいただけると思います。

淡水生物

淡水生物のほうに目を移しますと、鴨川は水生昆虫学の発祥の地で、日本における流水の淡水生物学は、昭和の初期に鴨川を調査対象として始まったという輝かしい歴史をもっております。

そのため鴨川の整流は、古書をはじめ多くの詩歌にうたわれた文学の川としてだけではなく、淡水生物学の野外活動の場として扱われ、ここの生物相のリストは、わが国では最も豊富なのです。

加茂大橋における底生生物相は、昭和30年ごろから、都市排水だけでなく、上流の開発造成、高野川での砂利採取による濁水の流入などの影響で、豊富であった水生昆虫の種類および数がまず減少しはじめ、次いで固体数も少なくなってきました。

その状態も、昭和45年ごろから鴨川への汚水の流入は、下水についてはほどんどなくなり、また上流部には、処理水が放流されなくなったこと、川床を浚渫（しゅんせつ）して、多くの部分が早瀬になり有機物がたまらなくなったことなどから、生物相は次第に豊かさを取戻してきました。

現在では、鴨川の中心部に、トビケラや、カゲロウ、ヘビトンボなども多く生息するようになり、大都市の都心部を流れる川としては、世界でも珍しい生物相の豊かな川となっていることは素晴らしいことです。

鴨川を美しくする市民の願い

鴨川が汚濁しだしはじめたころから、京のシンボルである鴨川を美しくしようという運動が始まり、汚濁の進行とともに運動のほうも盛りあがってきました。

今日再び鴨川の清流をみることができたのは、自治体などの施策に負うのはいうまでもありませんが、数多くの市民たちによる地道で息の長い、そして精力的な活動が大きく貢献してきたことは評価されるべきことです。

その他の河川

なお、京都の他の主要河川である宇治川、木津川、そして桂川（大堰川）についても、一時みられた汚濁の進行が止められ、最近では再び清澄さを取戻してきました。

由良川、紀の川とともに近畿における屈指の清流として、京都府北部における生活、産業などのよりどころとなっています。

（農学博士・㈱島津テクノリサーチ主幹技師）

表２　鴨川の上中下流におけるBODの経年変化（mg/ℓ）

調査年度	採水地点 出町橋（上流）	三条大橋（中流）	京川橋（下流）
43	－	5.7	51
44	－	6.2	21
45	2.5	3.2	13
46	3.4	6.3	13
47	4.1	5.3	11
48	3.9	3.6	17
49	2.2	2.6	19
50	1.8	2.2	17
51	2.0	1.9	17
52	1.4	1.8	24
53	2.0	2.3	17
54	1.7	1.8	7.7
55	1.3	2.2	8.4
56	1.6	1.7	7.6
57	1.4	1.6	5.2
58	1.3	1.4	5.2
59	1.2	1.1	4.2

（昭和59年度　京都府による公共用水域水質測定結果から）

夏目先生まねき講演会

乙訓医療生協

11月19日の日曜日、京都生協向日市組合員センター２階で、夏目文夫弁護士(京都府生協連会長)の講演会が開催されました。テーマは、「明日を信じて今日を生きる――人間らしさとは何であるか」。

先生は、自分の体験をある時は力強く、ある時は淡々と話されました。尋常高等小学校の時代、体の障害のために図工と体育の授業が受けられず、その課目についてクラスの最低以下の点をつけられたこと、体の障害を理由に、本来の成績より下げて順位がつけられたこと等を話されました。今でもその口惜しさは忘れていないという口調に、会場のあちこちからすすり泣きが聞こえました。さらに先生はおっしゃいました。「私達から人間らしさを奪うものと闘わなければならない」と。

本当にそうだ、とみんなは思ったにちがいありません。個人の自由や人権が憲法で保障されているとはいえ、今でも目に見えない差別が社会的弱者に集中しているというのは否めないことでしょう。それを身をもって体験し、自らの努力と回りの励ましによって乗り越えられた先生の言葉だからこそ、深く強く私達に迫ってきたのではないでしょうか。

講演の後、先生を中心に囲んでみんなで記念撮影をしましたが、こんなふうに、体の不自由な人の回りに自然と人が集まるようになれば、どんなにすばらしいことだろう。先生をはじめとして、皆、心から笑っていたような気がしました。

（乙訓医療生協職員・樫木訓子）

国民医療改善署名で街頭に

京都医療生協

京都医療生協は、10月21日（四条大宮）と24日（四条河原町）の２日間、国民医療の改善を求める街頭署名にはじめて参加しました。組合員やナカノ眼科職員など30人が街頭に立ち、１時間半で532人の署名を集めました。

この署名は、厚生省が90年にすすめようとしている医療制度の大幅な改悪……健保本人負担を月800円から定率５％負担へ、公費医療への国庫負担の削減と営利主義の導入など……に反対して、老人医療無料化の復活など、いつでも、どこでも、安心して医療が受けられる医療制度を作ろうと、全国で1000万人の署名を集めようとすすめられているものです。

街頭署名ははじめてだという若い女子職員は、「若い人々は関係ないと通り過ぎていく人が多かった。若い人々にもっと理解してもらいたいと感じました。」と、初体験の感想を語っていました。

（京都医療生協専務理事・田中　弘）

水俣問題の早期全面解決を

ノーモア・ミナマタ京都府民のつどい

11月14日、「ノーモア・ミナマタ京都府民のつどい」が京都市社会教育総合センターで開かれ、市民、水俣病京都訴訟を支援する会会員ら150人が参加しました。

フォトジャーナリストの中村梧郎氏がスライドをうつしながら世界の公害・環境問題を語り、つづいて国語学者の寿岳章子氏、水俣病京都訴訟弁護団長の夏目文夫氏とともにてい談しました。

被害者からの証言では、「ふるさとを離れ、ふるさとを偽って生きてきたが、自分にも水俣の症状がでてきた。いま、私は胸を張って水俣出身ですと言います。訴訟へのご支援を」など、全面解決の希望をささえに苦しさをのりこえて生きる人びとの訴えがありました。

最後に、放置されつづけた水俣病被害者の早期全面救済と京都訴訟の勝利、これを１歩としての地球環境保全を求める「アピール」を採択しました。また、この日、支援の輪を広げるため発行されたパンフ「みなまた」（水俣病京都訴訟を支援する会編、頒価300円）の普及がよびかけられました。

（S）

手づくり弁当で「お食事会」

京都生協「たすけあいの会」

京都生協くらしの助け合いの会は、毎月、地域のお年寄りを対象に「お食事会」を下鴨組合員センターで開いています。

１人500円を負担していただき、助け合いの会員の方々の手づくり弁当を参加者と一緒に楽しく食べようという企画です。

お年寄り向きで、季節感も盛り込まれ、栄養バランスも考えられているお弁当は好評で、毎回百食近く作られます。会場に来れない会員の方には、個別配達され、１人暮しや食事療養をされている方々に喜ばれています。

日頃、楽しく、にぎやかに食事をする機会の少ないお年寄りも、この日ばかりはおしゃべりに花が咲き、ゆっくり味わいながらの食事に「いつもよりたくさん食べてしまったわ」と満足げな声が、あちこちで聞かれ、もう次回が待ちどおしい様子でした。

（M）

「生協の福祉サービス」などで意見交換

第1回近畿地区生協・行政合同会議

12月13日、近畿地区生協府県連協議会の主催による第１回近畿地区生協・行政合同会議が、コープ.イン.京都でひらかれました。

最初に京都府生協連副会長の横関武・京都生協理事長があいさつ。これをうけて厚生省社会局生活課の佐藤永治生協監査指導官、日本生協連の大谷正夫常務理事が報告。

佐藤氏は生協の現状や最近の動向、「生協による福祉サービスのあり方に関する研究会」報告書などについて報告しました。また、県域をこえた事業連帯組織の考え方や、生協の指導・監督にあたるなかで、感じられた問題点等についても報告されました。

大谷氏は近畿地区の生協の位置や役割について強調したあと、最近の消費者問題、「生協規制」の動きなどについての考え方をのべました。またＩＣＡ大会の日本開催についての準備状況についても説明しました。

このあと、各府県生協連、各府県行政からそれぞれ報告しあい、懇談にうつりました。

懇談では、福祉サービスのあり方、休眠生協の取り扱い、食品安全や環境問題など、幅広く意見交換が行なわれました。

この会議に京都の生協からは横関氏のほか、井上吉郎・京都府生協連専務理事、原強・同常務理事、吉田智道・京都生協専務理事、長義一・大学生協京都事業連合専務理事が出席しました。（Ｈ）

「月曜会」と府生協連役員との懇談会を開催

10月５日、コープ､イン､京都において、京都の報道機関幹部の会・「月曜会」と府生協連役員との第１回の懇談会がおこなわれました。

これは、府生協連の広報・広聴活動の一環として開催されたもので、月曜会会員と府生協連の役員、広報委員会委員ら28人が一堂に会しました。生協側から京都の生協の組織と事業、活動について説明し、懇談会の定例化、府生協連広報委員会の「コープレポート」への援助を月曜会に要望しました。会議のあと、会場を移してコープインの料理を味わいつつ、歓談しました。

コープインやそれぞれの生協について月曜会会員から質問がだされるとともに、情報交換され、懇親の機会となりました。（Ｓ）

輝いた手話のうたごえ

「89日本うたごえ祭典」に参加して

京都生協手話サークル
宮下千枝子

「89日本うたごえ祭典」が京都でひらかれた。この「祭典」で発表された手話による「合唱」は大きな感動をよびおこした。以下は、この「合唱」に参加した宮下さんのレポートです。

11月26日、府立体育館での日本うたごえ祭典にはじめて「手がうたう」で参加しました。

「春をつげる君」の曲がながれます。右手にリボンをつけ、花のような明るい服を身につけたろうあ者の人たち、手話サークルの人たち、100名が手でうたいだすのです。「春はそこに来ているんだよ」という歌にあわせ、遠くに春はあるけれど、すこしづつ近づいてきていると、心でリズムをとり、手でうたうのです。その姿は本当にキラキラ輝いているようでした。

今まで音楽は耳の聞こえる人たちだけのものと思われていました。耳が聞こえれば音で季節を感じたり、音楽で心をなごませたりできます。まったく音から遮断された人、生まれた時から聞こえない人たちにとって音楽は苦痛なものといえるのです。その、耳の聞こえない人たちが、いま、うたっているのです。

今回、「手がうたう」という企画があるということを知ったろうあ者の方から「私たちの手話がおおぜいの人に知ってもらうきっかけになったら」という話が出され、それをきいた人たちが「手話でうたえることがうれしい」と喜んで集まってくれました。

この「手がうたう」に参加できたのも、３年前、京都で1000人で平和をうたう会にとりくんだとき、ろうあ者から「歌はうたえないけれど平和を願う気持ちは同じ、手話で参加したい」との希望が出され、それにこたえ輪が広がり、今年は広島でも「生命の木空へ」を手話でうたったことがあったからです。

もうひとつよかったことは、「いのち育むうた福祉合同」として、他の障害者の仲間たちといっしょにうたえたことです。去年（1988年）の共同作業所全国集会の時にできた合唱団“ポケット”のつくった「嵐」という曲では、曲の中の「雨雨風風がふきあれる、そんな時こそ僕たちは強くなっていく」が手話表現にピッタリで、汗をながしながら1500名が大合唱しました。

今回のとりくみを通じても、障害者の中にもいろんな障害があることを知り、また一般の人たちにも障害者のことを広めることができて喜んでいます。また、このようなことが障害者の世界を広げていくことを願っています。

まちづくりと文化を考える。

'89京都文化フォーラム

11月12日、「まちづくりと文化を考える」をテーマに89京都文化フォーラムがコープ.イン.京都を会場にひらかれました。

京都文化フォーラムは、舞台入場税撤廃運動を広げていくなかで文化の問題をさまざまな角度から話しあうことをめざして、京都の文化団体が中心となり、86年から実行委員会をつくり開催されてきたもので、ことしで第3回目になります。今回から京都府生協連も実行委員会団体となり、とりくみがすすめられました。

フォーラムは音楽家ユニオンによる演奏にはじまり、京都市職労委員長の河内一郎氏のあいさつ。つづいて随筆家の松本章男氏の講演「京都・風土の四季とまちづくり」、弁護士の中島晃氏の特別報告「住民の手によるまちづくりは今」が行なわれました。

松本氏は「京都らしさ」の根本に四季おりおりの季節感があること、しかし、それも京都が京都でなくなるような事態が進行するなかで失われつつあることを強調しました。

中島氏は、すさまじい勢いですすむ京の「まちこわし」の現状をリアルに報告しながら、これに抗して住民の手によるまちづくり運動が草の根から力強く発展していること、それは自治の担い手としての住民の自覚的な行動の高まりに特徴があること、などを指摘しました。

午後には「文化運動と文化行政の現状」、「都市の現状と地域文化」、「再開発と住民のくらし」、「食品流通の現状と生活習慣」の4つの分科会にわかれて討論や交流をふかめました。「食品」の分科会では、京都生協の食生活に関する組合員調査結果なども討議の素材として紹介されました。

（H）

共同購入代金自動引落しがスタート 京都生協

京都生協は、以前より要望の強かった共同購入代金自動引落しを、10月第4週より実施しました。

約1年間の組合員討議を経ての実施ですが、自動振込みをしない組合員には、従来の集金体制も残されています。

自動振込みによって、班当番の仕事の軽減及職員の集金、計算作業をはぶき、この時間を組合員活動などに有効に使う提案がされています。そして、このシステム導入によって、生協に参加したくてもできなかった方や働きに出たために脱退せざるをえなかった方が復帰できる条件もできたわけです。

京都生協では、組合員の種々の要求に応え、システム改善を行ってきましたが、今回の実施は共働き対策の一環として準備されてきたものです。

●気になるこの本

『デルタからの出発
——生協運動と先覚者 能勢克男』

京都生活協同組合編
（かもがわ出版 1,600円）

天野みどり

私達が「生協運動とは……。」ということを語る時、その原点となるものは、これまでは、イギリスのロッチデール公正開拓組合の話であり、賀川豊彦の「死線を越えて」の映画でありました。京都生協の生協活動の歴史や由来について、まとめられた書物は、ほとんどなかったのではないでしょうか。（私が知らなかっただけかもわかりませんが……。）

このたび京都生協が25周年を迎えるに当って発刊された『デルタからの出発』は京都生協が誕生する背景、その目指したものや歴史を知るための貴重な資料になると思います。

とうとうと流れる川をさかのぼって源流にたどり着いた時のような感動を覚えました。戦争の足音が聞こえて来る1929年に、その源流があったのです。一時、権力による弾圧等で中断されましたが、1964年に「京都洛北生協」として再び生まれたのです。この本には、初代理事長だった能勢克男先生が、当時の機関紙「洛北」に寄せられた小論の中から生協活動に言及した部分が収録されています。

能勢先生は「平和」「くらしを守る」という高い理想をかかげて生協運動に情熱と愛情を注がれました。

「頼母しき隣人たらん」の一節には、「お隣からお隣へ、物資とイキのいい誠実とを配達して廻ります。総会にはそういう人間らしい人間の声を結集して、おたがいに頼母しい隣人になりましょう。」（P94）とあります。

京都生協にはこのようなすばらしい思想が脈々と底流を流れていたことを知り、あらたな感慨がありました。最近の運動には物（商品）や店舗、事業面等のハードな部分ばかり前面に出ている。そして、生協運動に関する書籍にしても、やたら学問的で難かしいものが多いようですが、そのなかで能勢先生の人間味あふれる文章、創設期に活躍された組合員の方々の対談の部分は、「生協運動とは……」の問いかけに、やさしく答えてくれるものがあります。

この本の中に書かれている「とかく組織が大きくなり、機構が複雑になった時、いつも始めにみんなで集まって相談して発足した私達の小さな歴史をいつも思い出したい」というのは、今、まさにその時ではないでしょうか。21世紀ビジョンや、長期計画をたてるにあたって、また25周年を機に歴史をふりかえり、あらたな出発点とする時、この本はよき指針になるでしょう。

（京都生協理事）

大学生の食生活フォーラム

と　　き　1990年2月10日(土) PM1:00～6:00(終了後、懇親会)
ところ　コープ.イン.京都
主　　催　全国大学生活協同組合連合会
記念講演　「自立した食生活のために」
　　田中　恒子氏(奈良教育大教授)
参加費　1,500円(ただし、懇親会参加者は6,500円)

環境保全・資源のリサイクルを考える消費者のつどい

と　き　1990年1月18日(木)
　　PM1:30～4:00
ところ　京都府立勤労会館
主　催　主婦連京都支部
　　京都消費者団体連絡協議会
　　京都省エネルギー協会

灯油裁判報告集会

と　き　1990年1月24日(水)
　　AM10:00～12:00
ところ　コープ.イン.京都
主　催　京都生活協同組合
　　京都消費者団体連絡協議会

京都生協25周年記念〈生活文化博〉
EXCOOPO KYOTO '90

と　き　1990年2月17日(土)～18日(日)
　　AM10:00～PM4:00
ところ　総合見本市会館パルスプラザ
　　EXCOOPOひろば／くらしづくりのまち／ファッションのまち／
　　子どもの部屋／文化とスポーツのまち／食品のまち／
　　ミニショップ／屋外市　などなど……。
主　催　京都生活協同組合